

第7次埼玉県廃棄物処理基本計画（案）に対する御意見と県の考え方

- (反映状況の区分)
- A：意見を反映し、案を修正した
 - B：既に案で対応済み（既に制度があり対応済み）
 - C：案の修正はできないが、実施段階で参考としていく
 - D：意見を反映できなかった
 - E：その他

No.	御意見の内容（要約）	意見数	県の考え方	反映状況
1	「リサイクル資材の認知度向上が必要」とか「3Rに係る情報の発信」と書いてあるが、具体的にどのように進めるか分からない。	1	リサイクル資材の認知度向上の施策として第5章第2節2(1)アにリサイクル製品の認定制度の導入を記述しています。 3Rに係る情報の発信としては、第5章第2節4(3)に3R実践団体への情報提供や学校での環境学習、彩の国資源循環工場での講座開催を記述しています。	B
2	産業廃棄物処理施設は事業者の経営を圧迫しないよう、必要な場合には、工業団地などでの建設を奨励してほしい。	1	廃棄物処理施設の適正な配置については、第5章第2節2(3)オに工業系用途地域への適正な配置を誘導することを記述しています。	B
3	県立自然公園内で廃棄物の処理・埋設行為をさせるべきではない。 アスベストなど有害物質飛散のおそれもあるので町にまかせず県職員が直接指導すべきである。	1	第5章第2節3(2)に記述のとおり不適正処理の監視に現在も取り組んでいます。	B
4	「循環型ライフスタイルの促進」としてマイボトルやマイバッグを使うことを推奨しているが、県だけではなく、市（町村）や町内会にも働きかけてほしい。	1	マイボトルやマイバッグ利用促進のため、市町村や商工団体など地域と協働してキャンペーンを行ってきました。第5章第2節1(1)アの循環型ライフスタイルの促進については、引き続き地域と連携して進めます。	B

5	「エコオフィス化、廃棄文書等のリサイクルの推進」では、県庁内のエコオフィス化とあるが、県庁ばかりでなく、外へ向けてエコオフィスを進めるべきである。	1	現在、オフィス3R推進事業により県内のオフィスでの3Rを促進しています。第5章第2節1(2)エに記述のとおり県庁内はもとより事業者に対しても引き続きエコオフィス化を働きかけます。	B
6	絶対に必要な最終処分場は数十年の計画で作るべきだ。「最終処分場の計画的な作り方を考える」という項目を入れてはどうか。	1	現在も最終処分場は長期の計画で建設を進めています。第5章第2節2(2)イに記述のとおり最終処分場の確保は重点施策としており、引き続き県営による安心・安全な最終処分場を確保します。	B
7	資源ごみステーションでは、衣類・ペットボトル・缶などがごみ袋で収集されているが、諸外国のようにコンテナボックスを使った回収をすべきである。	1	ごみの分別や回収は、市町村が責任を持って行っております。第5章第2節1(2)ウ(ア)のとおり、参考になる事例について市町村に情報を提供していきます。	C
8	粗大ごみの廃棄にも費用がかかる時代だが、リサイクルショップに関する情報が少ない。 また、リペアショップ(修理店)があれば、ゴミも製品になる。	1	第5章第2節4(1)及び(3)のとおり県民が環境にやさしい生活を行えるよう情報の提供をしていきます。また、3Rを実践するNPOの取組を活性化します。	C
9	リサイクルはあまりに美化されている。学校での環境教育では、ごみ処理の現場を見せるなど基本的知識がある人がきちんとしたことを教えるべきだ。	1	第5章第2節4(2)ア及び(3)のとおり専門知識を有する環境アドバイザーを派遣するなど環境学習を充実させるとともに、彩の国資源循環工場において体験学習の機会を提供します。	C
10	生木(なまき)の剪定枝のみでは燃料として利用できない。剪定枝を燃料として再生利用するには広域移動が可能になる「産業廃棄物」に指定して再資源化施設において再生する必要がある。	1	剪定枝のリサイクルは、第5章第2節1(2)アに重点施策として位置付けています。この取組は、まず、現在利用されていない剪定枝を地域内で再生し、園芸用資材や燃料などとして広域的に活用していくものです。	D

1 1	<p>廃棄物処理施設に石綿含有建材が混入した場合、選別後にそれを処理できる施設がない。今後、相当量の石綿含有建材が発生するおそれがあり、県の最終処分場で受け入れてほしい。</p>	1	<p>石綿含有廃棄物については、第5章第2節3(3)イのとおり適正処理の徹底を図っていきます。</p> <p>県営の最終処分場では受入基準に基づき石綿含有廃棄物を受け入れていません。</p>	D
1 2	<p>埼玉県は「自転車の保有が全国トップである」とのことだが、処分される自転車のリサイクルや貸し自転車としての利用を検討すべきである。</p>	1	<p>自転車のリサイクルやリユースについては、民間事業者、市町村、シルバー人材センターが既に取り組を進めています。</p> <p>こうした取組については、市町村に対して広く情報提供していきます。</p>	D

